

第2回 くれよん組の報告

【日時】平成20年8月2日(土)午後2時から午後4時

【場所】市役所 本館8階 第2委員会室

【内容】(1)グループごとに話し合う
(3)その他

【出席者】メンバー17人
ほか 職員、アドバイザー

1. グループごとに話し合う

☺ ハード面のバリアフリーのグループ ☺

【本日の議題】

まち(特に駅周辺)のバリアフリーについて、現状や困っていること等について話し合います。特に今年度は近鉄高安駅の基本構想がまとまります。タウンウォッチングは9月26日(金)の予定です。くれよん組も参加します。

【メンバーからの意見】

- * JR 八尾駅の放置自転車に困っています。特に新店舗ができてからますます状況が悪くなっています。車いすだけでなくベビーバギーもシルバーバギーも通れないことがあります。
- * 久宝寺口駅近くに住んでいますが、駅には10年前にエレベーターが整備されました。住民の声を集約した結果、他の駅に先立ち設置されました。中期・長期的な視点で様々な内容を盛り込んだ計画が策定されますが、障害者にとっては駅の整備など生活基盤の整備は今すぐ実現してほしいことです。
- * 近鉄河内山本駅も放置自転車がひどい状態です。また、踏み切りの幅が狭くて渡るのが怖いです。
- * 恩智駅周辺の道路は狭くて怖いです。でも駅周辺の道路の拡張については地主さんの理解・協力が必要です。
- * JR は駅のホームと電車との隙間が広くて乗降が怖いときがあります。いまだに車いすが通れない改札があったりします。

- * 聴覚障害者の場合は緊急放送が視覚でわかることがバリアフリーです。ホームの案内板がデジタルになって緊急放送を文字で知らせてくれるといいですね。
- * 視覚障害者の場合はホーム柵が必要です。最近出来た地下鉄今里駅はバリアフリーが進んでいました。エレベーターもどうせつけるなら大きいサイズを設置してほしいです。
- * バスの利用の時ですが、スロープの出方がワンステップ・ノンステップと2種類あり、利用しにくいスロープがあります。またバス停によってはスロープを下ろせない所があります。そのため、降りたいバス停でなく、車イスを降ろせるバス停で降りることになります。また、車イスで利用したときに車中の車イス固定器具の使用方法をご存じない運転手さんがいます。車止めもバス用のものを出してこられて驚いた経験があります。
- * 歩道のインターロッキングは隙間を工夫することで車いすへの振動が減ると思います。実際に京都に行ったときにそのような歩道を発見しました。

【本日の結論】

- * 近鉄高安駅のタウンウォッチングにはできるだけ参加して、ワーキングのメンバーの意見をまとめよう！
- * 地元の障害当事者にもできるだけ参加してもらったほうがよりインパクトがあるので、呼びかけよう！

😊 ソフト面のバリアフリーのグループ 😊

【本日の議題】

ソフトと言っても大きなテーマなので、その中の「啓発」にしぼって話合います。

現在、啓発活動は、いろんな団体やグループまたは個人で行っています。その啓発活動を行う中で、受け手が求める内容と送り手が伝えたい内容とにズレがあるように感じます。受け手が求める障害理解に繋がる啓発活動とは何か、どんな内容をどのような形にして伝えて行く事が良いのか、また、送り手側の心得などを中心に話し合って行きます。

【メンバーからの意見】

それぞれが行っている啓発活動について

- * 手話サークルに入っています。サークルでは手話で会話ができますが、サークル以外の場では手話を分かってくれる人はほとんどいません。また、学校で手話体験をしてもらおうという聴覚障害の啓発をしています。子供たちだけではなく、親や家族にも伝えてほしいと思います。

- * 啓発のため大学などで講演をしたり、オリジナルソングを歌ったりしています。罪を犯す精神障害者はごく一部であり、多くの精神障害者は日常の簡単なことで困っていること、精神障害者は怖い人ではないことを伝えたいです。
- * 老人大学で都市環境について学んでおり、グループで駅の使いやすさを調査しています。また、家族の病気や障害について勉強したり、アドバイスしたりしています。
- * 親族や友人、外で関わる人に自分の仕事（福祉関係）について紹介しています。
- * 障害者団体が行うイベントに積極的に参加しています。
- * 手話サークルで、学校やPTAの人たちに講座を行っています。他にも、障害者理解のための冊子を作成したり、職場をはじめ、いろいろな場で障害特性に応じた対応の方法を伝えるなどしています。
- * 障害者団体の活動として、小学校、中学校・高校へ出向いて啓発活動していますが、自分たち（当事者）が伝えたいことと学校側から求められることにズレを感じる時があります。
- * 作業所の工賃の低さを知ってもらい、障害者の暮らしについて啓発していきたいです。
- * 啓発の講座などを受ける事で、障害や障害者への“とっつきやすさ”につながると思います。
- * 障害のある人がどんどん町へ出かける事が啓発になると思います。

啓発活動は、必要ですか。また、なぜ必要でしょうか

- * 障害者やその家族が少しでも生きやすい社会になるためには、必要だと思います。
- * 障害を少しでも理解してもらうためには、伝える事が必要だと思います。自分たちの事は、自分たちの声で伝えたいし、それが一番伝わりやすいです。
- * 啓発活動は必要だと思いますが、当事者の中には自分の障害を隠したいと思う人が多いです。だけど、多くの人たちに障害について理解してほしいと願っています。
- * 困っている人を心から助けようという社会であれば啓発はいらなくなると思います。
- * 学校の授業で障害理解のための講座等を実施することで、学生が障害について知る機会となります。知らないことは知らないままになってしまうので、啓発活動によって、知るきっかけとなります。
- * 障害に関わらず、伝えないと分かりにくいことは、あえて伝えて行くことが大事だと思います。
- * より親しく付き合う事が大事です。生活する中で、自然に伝えていける事もあります。
- * 「啓発」とは、知らない事を知ってもらう事です。
- * 理解してもらえないからといって、何も言わなかったらそこから前には進み

ません。外から見てもわかりにくい障害があります。そういう障害は特に伝えていくことが必要です。

- * 障害者同士でも、自分の障害以外はあまりわかっていません。だから、多くの人に伝えていかないとはいけません。
- * 町へ出かけること、社会と関わるのが大事な啓発となります。

啓発活動を行っていて感じること

- * 福祉農園で、他の障害者と気楽な交流ができます。気楽な交流からはじめる啓発もあるのではないのでしょうか。
- * 啓発活動のため学校へ行くと、聴覚障害児のコミュニケーションの難しさについて話を聞きます。どうしたら少しでも改善できるのかを考えます。そして楽しい学校生活を過ごしてほしいと願っています。
- * 自分の事を知ってもらうことで、より深い付き合いができるようになります。
- * 啓発に行く場所や相手によって、内容や対応を変える必要があります。
- * 自分の住む地域での啓発は、きっかけ作りからはじめています。
- * 職場では、自分の障害をオープンにできません。
- * アイマスクや車椅子体験は容易に体験できますが、聴覚障害の体験は難しいです。それなら手話通訳の必要性、大変さを知ってもらうほうがよいのではないのでしょうか。

4 . その他

(1) 第 3 回ワーキング会議の日程

第 3 回 1 0 月 4 日(土) 午後 2 時から 市役所 本館 8 階第 2 委員会室